

兵庫県
保険医協会

西宮 芦屋 支部ニュース

No. 340

2017・10・25

〒662-0832

発行 兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部
西宮市甲風園一―一五 法貴皮膚科内
連絡先 兵庫県保険医協会
電話〇七八(三九三) 一八〇三

リスクマネジメント研究会

実りある医療事故対策と患者補償の構築を

医療事故調の問題点を解説

西宮・芦屋支部は7月8日に協会会議室でリスクマネジメント研究会を開催。「間違いだらけの医療事故調査制度」紛争解決の視点と医療安全の視点の切り分けが出来ていますか」をテーマに、医療法人櫻坂坂根Mクリニック院長・「現場の医療を守る会」代表世話人の坂根みち子先生が講師を務め、医師・メディカルスタッフら36人が参加した。司会を務めた西宮市・半田医院院長 半田伸夫先生の感想文を掲載する。



事故調の現状について学ぶ参加者。講演後は熱心な質疑応答がなされた

医療事故をなくすためには、その問題や責任の所在を求めても解決しないことが、2011年のWHOドラフトガイドラインに示された。つまり、医療安全が中心となれば、広く網羅的に情報を集め、真実は何か、対策すべきは何かを考えることが可能であるが、紛争解決が中心となれば、常に責任追及し懲罰性になるため、結果は判決や示談で終わり本当の真実は明らかとならない、と考えられる。坂根先生たちはこの趣旨に沿って日本医療法人協会として事故調運用ガイドラインを作成し、ロビー活動などで現在の医療事故調査支援事業に多大な影響を与えた。



事故調の問題点を語る坂根先生

坂根先生は、システムとして医療事故にうまく対応しているとされるスウェーデンを訪れ、日本の制度との対比をおこなった。その結果、医療事故調の理念の統一を医療界のみならず、法曹界にも周知すること、患者救済のための広範囲の無過失補償制度の充実が急務であると考えられた。一方で現場の医療機関は、患者のため(Patient first)の考えの下、医療の質の向上とともに、全死亡例と有害事象の解析と、そのフィードバック、予期せぬ重大事故の際の迅速な対応やブリーフケアなどをする必要があると提言した。さらに根本には医療界、特に医師の過重労働があり、その是正は何より急務であるとしている。

研究会ではこのように医療事故に対する対応について、再発防止を中心とした新しい動きをきわめて分かりやすく説明していただいた。その上で、現在の日本の現状の問題点を具体的にお示しいただき、極めて有用な講演だった。なによりもシステムエラーをなくすフィードバックを医療事故調査支援センターから発信して欲しい。

【西宮市・半田医院 半田伸夫】

第17回胸部X P読影会

気兼ねない意見交換できて面白かった

西宮・芦屋支部は9月15日に西宮渡辺心臓・血管センターで、第17回胸部X P読影会を開催。原秀樹先生(尼崎市・はら内科クリニック)が講師、橋野盛彦先生(西宮市・橋野医院)が司会を務め、医師10人が参加した。

参加者は日々の診療で撮影した胸部レントゲンの画像を持ち寄り、画像から読み取れる疾患について討議。誤嚥性肺炎、肺がん、黄色ブドウ球菌による肺炎、非結核性抗酸菌症、気管支拡張症など、様々な事例

について、見落としがなかったか、自分の診断は正しかったかなど、それぞれの立場から率直な意見交換を行ったうえで、原先生がアドバイザーとして意見を述べ、お互いの認識を深めあった。

参加者からは「自分たちの意見をお互いに気兼ねなくぶつけ合うことができて、非常に面白い勉強会だった」、「診断に難渋した事例があればレントゲン画像を持ちよってまたぜひ参加したい」などの声が寄せられた。



持ちよったレントゲン画像に基づいて真剣に討議する参加者

プライマリケア研究会 COPDの基礎から最新知見まで解説

西宮・芦屋支部は8月26日に西宮渡辺病院でプライマリケア研究会を開催。「日常臨床におけるCOPD診断と治療」をテーマに、西宮渡辺病院・呼吸器内科部長の松浦邦臣先生が講師を務め、医師・薬剤師ら16人が参加した。司会を務めた林田英隆先生(西宮市・林田クリニック)の感想文を掲載する。

今回は平成26年1月に西宮渡辺病院呼吸器科の部長として着任された呼吸器専門医の松浦邦臣先生に、世界で死因の第3位、我が国では脳血管疾患を抜いて死因の第3位「肺炎」に深くかかわっているCOPDについて、「日常臨床におけるCOPD診断と治療」と題し、素晴らしい77枚のスライドを使って、わかりやすい講演を拝聴いたしました。

以前は肺気腫とか慢性気管支炎とか呼ばれていた病気で、これらをまとめて閉塞性肺疾患、すなわちCOPD (Chronic Obstructive Pulmonary Disease) と呼ぶことになりました。



COPDについて解説する松浦先生

になりました。講演では、COPDの疫学(日本人の有病率は8・6%、70歳以上では210万人、COPDの74%が65歳以上であること)や、COPDの定義(タバコ煙を主とする有害物質を長期に吸入暴露することによって生じた肺の炎症疾患であること)、患者は呼吸困難や慢性の咳・痰に慣れて、運動強度を下げることで、症状が乏しいという特徴があると話されました。COPDの診断には慢性の咳、喀痰、労作時の呼吸困難、喫煙歴、更にスパイトメトリーのデータなどが重要で、大前提は1秒率が70%以下であること。そして、air-trapping, deficiencyの病態や、気腫型と非気腫型についての説明、従来のスパイロメトリーによる病気分類をもとにしたGOLD分類は生命予後に矛盾があるとのこと、2017年の新しいGOLD分類についても詳しく説明されました。

最後に、薬物治療、LAMA、LABA、ISCの薬剤の使用のタイミングやそれぞれの利点について詳しく説明され、あつという間に1時間が過ぎてしまいました。私も第一線の医療に従事する医師は患者さんの大半が高齢者です。今後、ますます増える患者の訴えが乏しいCOPDの知識が必要です。今回の講演はその知識を得る素晴らしい講演会でしたが、開業医の先生方の参加が少なく、残念に思いました。

英語で診療 Medical English #50

より自然な表現方法・発音が学べた

西宮・芦屋支部は7月14日に西宮医療会館で、50回目を迎えたMedical Englishを開催。「Migraine・Joining a clinic」片頭痛・外来受診IIをテーマに、Robert Conroy氏が講師、坂尾福光先生(西宮市・ビューハイッククリニック)が司会を務め、医師・薬剤師ら7人が参加した。書籍『英語で診療』シリーズを教材に、今回は「片頭痛持ち」の息子を連れて来院した患者と医師の問答をロールプレイング

形式で学習。Conroy氏からは発音や表現方法について個別的な指導がなされた。参加者からは、「宿題をいただいただけでも勉強になります。英語で診療シリーズをあらためてじっくり読み直す必要性を感じました」、「より自然な表現を学ぶことができました。本を読むだけでは発音が多からなかったので、正しい発音を教えていただけると役に立っています」などの感想が寄せられた。



今回もConroy氏が発音指導



坂尾先生が司会を務めた

世話人会だより

西宮・芦屋支部は9月22日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催。5人が参加した。

- 【報告】
- ①プライマリケア研究会(8・26)
- ②第17回胸部X・P読映会(9・15)

- 【予定・企画】
- ①第34回漢方研究会(10・7)
- ②英語で診療 Medical English #51(11・17)
- ③プライマリケア研究会(2018・1・20)

- 【予定・企画(日時未確定)】
- ①健康と医療について語り合う会

- 【協会・保団連行事】
- ①第32回保団連医療研究フォーラム(10・8〜9)
- ②第26回日常診療経験交流会(10・29)
- ③第92回評議員会・臨時決算総会・第40回共済制度委員会

*世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

英語で診療Medical English#51

Iron deficiency Anemia, Bronchial Asthma, Phoning a clinic
=鉄欠乏性貧血、気管支喘息、外来に電話をする=

日	11月17日(金)	午後2時~
時	西宮医療会館	
場	Mr. Robert Conroy	
師	ビューハイッククリニック	坂尾 福光 先生
会		
講		
司		
参加費	無	料